

演者占い師と 作家占い師

20230601

エリー



—

目次

ツイートコピー	1
---------------	---

ツイートコピー

周りから見たら「理不尽なお局」でも、自己認識は「聖女」だったりする。
その場合、占うとどうなるか？
ケルト十字なら「周囲」以外は自己認識が出る。
でもエーススプレッドやルノルマンのオリジナルイエスノースプレッドだと「覗いた景色」が出る。つまり関係性。

質問に対して、違和感を感じる場合がある。
相手の悪い反応を引き起こしてるのは、「質問者では？」という場合に起きる。
でも自分が不利になるような部分まで、具体的に描写して、正確なやり取りを話す人はほとんどいない。
抽象的な単語で要約した説明だけする。

しかし、質問者でも関係者でない占い師のわたしは、その場面を見た訳でも、経緯を知ってるわけでもない。
「あなたが悪いんじゃないの？」と決めつけるような言い方はしない。
そもそも悪いことを悪いと認識するのはタイミングがある。本人が「悪いかも？」と疑問に思わないと言いつつ訳すだけ。

そんな時、どうしたらいいのか？
「分からないことはいわない！」がベターと習った。
占いはあくまで想像であり、可能性なので、全てに答えられるわけじゃないから。
個人的な付き合いがあって詳しく知ってる相手なら「こういう風にだめなんじゃないかな。ここあたりある？」と聞くことはある。

しかし、まったく知らない相手に憶測で否定することはない。

リピーターで、「悪い点が知りたい」と考えている場合は言うこともあるが、改善案を提供できるケースに限る。

ほとんどの問題は「正確に把握できない」が原因で起こる。願望や感情的な反応が入るからだ。

子どものころは「話せば100%そのまま伝わる」と信じて疑わない。だから分からないと腹が立つのだ。

大人になると世の中のほとんどのことは分かってない。まして人の心の中など分かるわけがない。自分の心を正確に把握できたら解脱してる。一生の修行であり人生の課題と知る。

占いを始めたばかりのころは、「わたしが未熟だから答えられない」「もっと勉強すれば未来が分かる」と思っていた。

「経緯(縦の軸)」と現状(面的な広がり)」という過去の事例から、「こんな問題ではないか？」と予測するから占いが当たる。

必然的に知らない要素のある未来「来年の運勢」は具体的には言えず、一般論になる。

たとえば、「双子座さんは木星が双子座に巡ってきたのでスタートの時期です」みたいなざっくりした話ならできる。

しかし「具体的に何がはじまるのか？」は言えない。

人は具体性のない抽象的な説明をさせると過度に大きな期待したり、色々考えすぎて不安になり疲れたりする。

そしてわたしは未来予測をあきらめた。

生年月日が分かっても、具体的にどんな人生を歩むか、言うことはできない。めちゃくちゃ抽象的な話ならできるが、小説ほどは言えない。

「未来は決まってないし、分からない」「サイクル」と「過去から現在の延長線上としての近未来」が予測できるだけだ。

占いの腕の問題ではない。

正確な予言は誰にもできない。
そもそも予言は占いではない。

過去や現在を正確に把握することさえ難しい。関係範囲の流れを面で臨場感ある認識してる人は少ない。自分の過去の出来事の意味さえ、曖昧なのだ。

文字が書けない老女が、習った後で夕焼けを見て「はっきり言葉で認識したクリアさ」に感動するツイートを読んだ。
全国放浪の旅をしたけど、やっただけなので何の記憶も残らず、語る言葉がなくて体験記が書けないツイートも読んだ。

繰り返したことは体が覚えていて、一度自転車に乗れたら、久しぶりでも乗れる。体にも記憶はある。
体に記憶してる職人は、言語化できないケースが多い。
なぜなら体の動きは総合的だからだ。
分かりやすいのはダンス。

たとえば、大きく腕を広げたら、もどるまでに時間がかかるよね？
「小さく開く」と「大きく開く」を同じテンポで動かそうとしたら、大きい方を素早くするしかない。
たいして、スピードを一定にするなら、必ず大きい方が遅なる。

小さく四分音符1つ。
小さく四分音符1つ。
大きく二分音符1つ。
でタイミングを一定にしつつ、強弱をつける、みたいな高難易度をダンスはしてる。

事務作業も、感情的な反応も、肉体を使うので総合的なのだ。
だからマルチタスクにすることが難しい。

たとえば、ゲームしながら音楽を聞いている場合、どっちも飛び飛びになる。
ゲームを操作する瞬間はゲームに集中して、音楽を聞いている時はゲームのことはサボりに任せて忘れてる。
もしゲームがどうなったか気にしつつ、人の話を聞いてたらどうなるか？
どっちの内容も分からないと思う。

マルチタスクといっても、同時に平行してやってるわけじゃない。優先順位を決めて、注意を払わなくていいものは放置して忘れてる。
オンオフ細かく切り替えてるだけだ。
オンを継続するシングルタスクがよい人もいるし、持続してるとつらい人もいる。
わたしは切り替えた方がいいタイプだ。

でも集中が辛いのに、オフにできなくて、いつまでも考えちゃうから、ごちゃごちゃになって疲れてた。
育児と家事をオンオフ小まめに切り替えて、「タイミングを合わせる」みたいなのは、総合的な運動だ。

たとえば、ドラクエ10の天地でカカロンを呼んだ後、攻撃に集中しきったら？
カカロンが消えてても気づかない。
全体を見渡して、「アイコンが点滅してる変化に気づく」が大事。
「次の攻撃なにしよう？」とか考え出したら気づかない。
コマンドを順番に並べて反射でやると気づくらしい。
できないけど

言語で思考しちゃうとタイミングが合わなくなる。
「体が無意識に反応する」が問われる。

だから、自然に身についた人は、意識してないから言葉にできない。
うまくできなかつた人は、言葉で認識して、やり方を変えざるを得なかったから言えるのだ。
そして下手くその方が教えるのはうまかったりする。
見習うならうまい人。
教えてもらおうなら下手から抜け出した人！

あなたがみただけで完全コピーできるほど再現力があるなら、一流のプロの側において寝食をともにするのが効果的。

あなたが説明しないと分からない鈍いタイプなら、挫折を意識して克服した経験豊富な実践者の本を読んだらいい。

「やって見せる」タイプは、対面鑑定が得意な演者占い師が多い。

その占い師のファンで、「会うだけで元気になる」みたいなカリスマ性のある役者だ。

「あんな人になりたい！」から相談する。話すだけでよい場合もある。

「疑問に答える」タイプは、チャット鑑定が得意な作家占い師が多い。

演者が「聞き方」のプロなら、

作家は「話し方」のプロだ。

だから、

自分のことを知ってもらいたいなら、対面鑑定が向いてる。

自分のことを説明してほしいなら、チャット鑑定が向いている。

なぜなら、対面はリアルタイムでやり取りするから質問がしやすいが、チャットは返信に間があくから細かく聞けないからだ。

演者占い師と作家占い師20230601

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
